

令和7年度

学校関係者評価報告書

令和7年10月1日

学校法人 向洋学園

宮崎マルチメディア専門学校

令和7年度 学校法人 向洋学園 学校関係者評価報告書

学校法人向洋学園は、当学園の教育理念、教育目的等をはじめとする学校教育及び学校運営について自己評価を実施し、「令和元年度 学校自己評価報告書」を取りまとめ、宮崎マルチメディア専門学校に公表致しました。

また、この度、学校関係者評価委員会を設置し、当学園に関連する企業・業界の方々や教育関係者の皆様より当学園の学校教育及び学校運営に対し、幅広くかつ的確なご意見、ご指導を賜りました。頂戴いたしましたご意見等につきましては「令和7年度 学校関係者評価報告書」としてご報告させていただきます。

今後は、委員の皆様から頂戴いたしました貴重なご意見やご指摘を真摯に受け止め、大いなる気づきとし、当学園のより社会のニーズに応えられる学生指導と教育の質の保証及び向上を目指し、教職員一同邁進して参る所存でございます。

関係者の皆様には、今後とも尚一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年10月1日
学校法人 向洋学園
宮崎マルチメディア専門学校
校長 佐藤 竜一

1. 学校理念

「全ての学生の夢を受けとめ、高い技術力と、豊かな人間性を備えたプロフェッショナルを育成し、社会に貢献する。」

2. 宮崎マルチメディア専門学校校訓

自 発
探 求
実 践

3. 学校の教育目標

- (1) 学生の夢を具現化するため、教育に携わる教職員一同は常に精進に努め、また、学校はその為の研修等を計画的に行う。
 - － 学生が目標に向かって生き生きと学べる学校 －
- (2) 高い技術力を習得させるため、関連業界との連携を深めながら、定期的に技術力の確認を行う教育プログラムを実践する。
 - － 企業が求める専門スキルを身に付けることができる学校 －
- (3) 豊かな人間性の構築を目指し、校外での体験、教育の場を設ける。
 - － 地域・社会の一人として責任ある行動を考えることができる学校 －

4. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 学んだ専門スキルが地域・企業連携に貢献できる場面をつくる。
- (2) 資格取得の指導は、個々の習熟度から受験計画を立て、レベル分け受験を基本として指導していく。
- (3) AI時代に求められるクリエイティブな仕事ができる人材を育成するために、創造力・想像力・企画力が身に付く学びを実践する。

5. 学校関係者評価委員一覧表

	評価委員	所属	役職名	備考
1	白石 敬晶	宮崎産業経営大学	教授	
2	小園 浩之	株式会社ジーニアスウェブ	代表取締役	
3	匠 貴司	株式会社グローアップ	代表取締役社長	
4	森 茂仁	株式会社ヴァリュースシステム	代表取締役会長	
5	佐々木 英	株式会社ヴァリュースシステム	取締役	
6	歌川 由里絵	株式会社電通プロモーションエグゼ	デジタルデザインルーム 宮崎拠点長	
7	井上 大輔	multi-solution	代表	卒業生
8	佐藤 竜一	宮崎マルチメディア専門学校	校長	
9	三橋 幸四郎	宮崎マルチメディア専門学校	副校長	
10	戸田 美香	宮崎マルチメディア専門学校	副校長	
11	押川 知寛	宮崎マルチメディア専門学校	学科長	

6. 討議・意見交換について

討議に入る前に、自己評価報告書の評価方法について説明が行われました。さらに、職員自己評価アンケートの有効性と、学生からの意見収集の重要性の意見が出た。

1	大項目	教育理念、教育目的、人材育成像
	中項目	教育理念、教育目的、人材育成像
	◆特に指摘なし	
2	大項目	学校運営
	中項目	諸規定の制定、学則・細則・内規等の整備、防犯対策、個人情報の保護、意思決定機関
	<p>「④人材の活用と適切な待遇への整備がされているか」について <方策説明>人材の活用については、専門スキルと適性を見ながら、授業・学生指導・校務等の役割の振り分けを行った。適切な待遇については、学生数など様々な要因がある中で、より満足する環境を整えていく。</p> <p><委員> ・学校の対応について理解し、引き続き経過報告をお願いします。</p> <p><学校> ・特定の教員に負担が集中していた国家資格指導について、複数教員でのシフト制を導入し、担当者の負担軽減と指導の質の向上を図った。 ・今後は、各学科長が教職員一人ひとりと定期的に面談する体制を構築し、業務内容や仕事量、適性などを詳細にヒアリングしていくことも検討する。これにより、職員の能力を最大限に引き出し、働きがいのある職場環境づくりを一層推進していく。</p> <p>⑤学生及び職員の個人情報について、個人情報保護法を遵守しているか <方策説明>個人情報については、継続して定期的な指導と確認を行い、データ管理の徹底と紙データの削減をしていく。</p> <p><委員> ・学校の対応について理解し、引き続き経過報告をお願いします。</p> <p><学校> ・紙データの削減を推進し、データ共有の管理体制を強化した。 ・UTM導入でセキュリティアップを行った。</p>	
3	大項目	教育活動
	中項目	理念・目的・人材像を反映したカリキュラム、カリキュラムの定期的見直し、キャリア教育、授業アンケート、授業計画、成績評価、単位認定、資格試験、教職員
	◆特に指摘なし	

4	大項目	学修成果
	中項目	就職率・推移、資格取得率・推移、退学率の低減
	◆特に指摘なし	
5	大項目	学生支援
	中項目	進路・就職への支援、学生相談への支援、学生への経済的支援、保護者との適切な連携、卒業生への支援体制
	◆特に指摘なし	
6	大項目	教育環境
	中項目	教育施設・設備、学内外の実習・インターンシップ、危機管理
	<p>①教育上の必要性に充分対応できる教育施設であるか <方策説明>各学科が育成する人材(スキル習得)とそれを達成するためのカリキュラムや必要であればパソコン等の設備や指導体制を検討していく。 <委員> ・Web制作では検証用機器が必要である。 ・大学ではネットワークトラブルには個別に対応している(Wi-Fiの問題は発生していない)。 <学校> ・授業で利用するPCのネットワーク接続が不安定だった問題に対し、高性能なWi-Fiを導入し、安定した接続環境を構築した。さらに、専門業者に依頼してネットワーク全体の調査を実施し、現在も継続して改善に取り組んでいる。</p> <p>④危機管理や防災についての体制や対策を周知しているか <方策説明>前回の指摘による取り組み報告となります。 <委員>なし <学校> ・令和7年度の新入生オリエンテーションに避難訓練を組み込み、入学直後からの意識付けを徹底した。また、「学校災害対策組織」の役割分担を再確認した。</p>	
7	大項目	学生募集
	中項目	学生募集活動の適正性、教育成果の伝達、入学選考、学納金
	◆特に指摘なし	
8	大項目	社会貢献、地域貢献
	中項目	社会貢献、公開授業・出張講座、ボランティア活動
	<p>③学生のボランティア活動を奨励、支援する体制が整っているか <方策説明>今年度もボランティアに関しては、イベント(祭り等)ボランティア、県や市からの動画・ポスター・キャラクターデザイン制作の依頼に応じている。現状は、専門スキルを活かせるボランティアに重点を置いているので、この体制で次年度も取り組んでいく。 <委員> ・大学ではボランティアを「授業」として扱い、単位が付与される仕組みがある。 ・採用する際にボランティアを評価することもある。しかし、その際、どういう思いや経緯でボランティアに至ったかが重要である。 <学校> ・昨年に引き続き、地域の祭りやイベントへのボランティア参加、県や市からの依頼制作に積極的に協力している。 ・地域の小学生向けに「マイクラフトによるプログラミング体験」イベントを開催し、地域貢献と児童の創造力育成に貢献した。また、宮崎大学の学生等と連携したハッカソンを開催し、専門学生が学外の学生と交流することで、高い刺激と協調性を育む貴重な機会を創出した。 ・今後は、学生個人の自主的なボランティア活動をさらに奨励するため、活動を公認欠席として扱うなど、学校としての支援体制を構築していくことを検討する。これにより、学生が学外での経験を通じて社会性を養い、自己成長を促す機会を創出していく。</p>	
9	大項目	財務
	中項目	財務状況、監査、財務状況の情報公開
	◆特に指摘なし	
10	大項目	法令遵守の状況
	中項目	法令遵守の状況、適切な学校評価への取り組み
	◆特に指摘なし	

その
他の
意見

◆特に指摘なし

以上